

社会に遍在する潜在情報と身体同調

Implicit Ambient Surface Information and Synchronization

渡邊 克巳^{†,‡}
Katsumi Watanabe

[†]早稲田大学, [‡]東京大学
Waseda University, University of Tokyo
katz@waseda.jp

Abstract

Behavioral and physiological synchronization have increasingly become considered as one of the bases of social interaction and empathy/sympathy. In this talk, firstly, I shall make brief comments on the preceding talks in the organized session and discuss their significances and the implicit aspect of social interactions. Also, I shall introduce our recently started project “Intelligent Information Processing Systems based on Implicit Ambient Surface Information”. Finally, I would like to discuss how to understand and how to proceed on the research on synchronization, empathy/sympathy, and social interactive processes with taking comments from the floor.

Keywords — Implicit, Ambient information, Interpersonal communication, Inter-subjectivity

1. はじめに

近年, 社会的状況における身体同期・生理反応の同期の研究が活発になってきている. この背景には, 社会的(と想定されている)現象を, その結果(例えば, 当事者の主観的報告やその後の認知や行動の変化など)の平均値としてだけではなく, 「イマココ」で起きている on-going の現象として捉えたいという研究者の気持ちが反映されている. 加えて, 主観性と客観性の枠を超えるための概念装置として, 主に哲学などの分野で語られて来た「間主観性」を科学の俎上に載せる試みとして一面も持っていると言えるだろう.

本オーガナイズドセッション「同調・共感・そして社会性をつなぐ」の内容も, このような方向性を共有したものになっており, 本講演では, 最初にオーガナイズドセッションでの内容にコメントをすることで, 今後の展開に対する期待を簡単に述べたい.

2. 社会性と潜在過程

同調現象や共感, 社会性を研究するのが難しい(かつ楽しい)のは, 他の心的過程と同様に, そのほとんどの過程が, いろいろな意味で無意識的に起きているからであろう. 態度や高次機能による影響はあるものの, その過程を意図的に操作することは難しい. それにも関わらず, 人間の社会性を媒介する情報は, 個体間で創発され, 私達の認知や行動, 体験を変化させている.

3. 潜在アンビエント-サーフェス情報

このような社会的シグナルは, どのようなものであれ個体の表層に「表現」され, 伝わらなければならない. この点を強調し, 人間や情報システムの表層にありつつも気づかれていない情報を「潜在アンビエント-サーフェス情報」と定義し, その科学的解明と活用を目指したプロジェクトを昨年度から開始した. このプロジェクトでは, 無自覚的な身体動作や自律神経応答などを, 自由に活動する個体や集団を邪魔することなく計測・解読する技術を開発し, 科学的知見の蓄積と理論化することを目指している. さらに, 実社会における「同調・共感・社会性」をつなぐ試みとして, 具体的な実証フィールド(スポーツ等)における人間と機械の創造的協働も目標としている. 本講演では, このプロジェクトの概観も紹介したい.

4. 参考ウェブサイト

<http://www.jst.go.jp/kisoken/crest/project/1111083/14529247.html>